



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2007.10

第10号

但馬国府国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669 5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



法興寺跡の軒丸瓦（原寸大）  
法興寺跡／朝来市和田山町／  
朝来市埋蔵文化財センター蔵

## 第12回企画展「瓦礫の考古学—瓦礫の山に蓮華咲く—」を開催！

価値のないものやガラクタを意味する「瓦礫」という言葉があります。重くてかさばる瓦や礫（＝小石）は、古来よりゴミ同然に扱われてきました。瓦や礫という漢字を使った言葉も、「瓦解」（簡単に壊れること）・「瓦合」（烏合の衆）・「瓦鷄」（形ばかりで用をなさないこと）・「礫塊」（値打ちのないもの）などのように、悪い意味ばかり。では、本当に瓦や石は役に立たないものなのでしょうか。

発掘調査では、瓦や石製品が出土する遺跡が多くあり、これらを抜きにして歴史を語ることはできなくなっています。このため、今回の企画展では但馬で出土した瓦や石を中心として、古代の文化交流の実態を紹介します。決して

派手ではなく、多くを語ろうとはしない「瓦礫」ですが、そこから歴史の奥深さを感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり多くの方のご協力を賜りました。記して厚く御礼申し上げます。

■第12回企画展「瓦礫の考古学—瓦礫の山に蓮華咲く—」  
平成19年9月27日（木）～平成20年1月15日（火）

■展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

朝来市教育委員会 朝来市埋蔵文化財センター

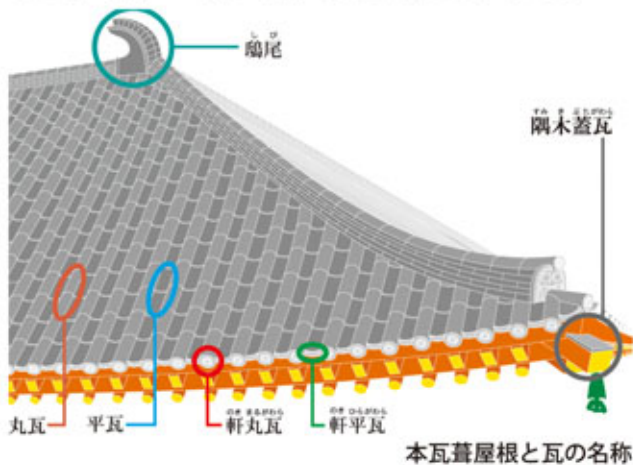
関西大学博物館 新温泉町教育委員会

豊岡市出土文化財管理センター 兵庫県立考古博物館

高松龍暉 田中弘樹 田畑基 中島雄二 中村弘 藤田淳

## 瓦 現代の瓦・古代の瓦

瓦が今のように身近になったのは江戸時代。それ以前の瓦葺きの建物といえば寺院や役所などであり、民家に瓦が葺かれることはまずありませんでした。江戸時代以前の瓦屋根は本瓦葺といって、平瓦と丸瓦をセットで組み合わせるもの。とても重いため、強度の弱い民家では採用できなかったのです。そこで登場したが、平瓦と丸瓦を一つにまとめた棧瓦。棧瓦は軽く、製造や施工のコストも抑えられるため、民家への瓦の普及に大きな力となりました。



## 瓦 軒先に咲いた蓮の花

古代の軒丸瓦には、蓮の花が表現されています。仏教において蓮の花は、泥の中から清らかで美しい花を咲かせることから「泥中の蓮華」とよばれ、極楽浄土や悟りの象徴として大切に扱われています。瓦に表現された蓮の模様（蓮華文とよびます）は、地域や時期によって異なります。このため、模様を細かく観察することで、瓦が作られた時期や歴史的な背景などを読み取ることができるのです。

### Topics 平瓦を作る

どれも同じように見える古代の平瓦ですが、時代とともに作り方は変化しています。

代表的な作り方は、「桶巻作り」と「一枚作り」。桶巻作りは、粘土板を桶に巻き、乾燥後に4分割する方法。一枚作りは、その名の通り一枚ずつ作る方法。近畿地方では、8世紀に桶巻作りから一枚作りへ変化します。一見、一度に4枚の平瓦ができる桶巻作りが便利のように思われますが、一枚作りの方が技術的に簡単で、大量生産に適していました。

## 瓦 但馬最古の瓦

但馬最古の瓦は、朝来市和田山町にある法興寺跡から出土しています。軒丸瓦に見られる蓮華文は、朝鮮半島の新羅で使われていたものに似ています。但馬最初の寺院建立という、最新の技術が必要な巨大大事業は、地元の人々だけではなし得ないもの。この寺を建てさせた人は、朝鮮半島と強いつながりを持つ権力者だったのでしょうか。



法興寺跡の軒丸瓦  
[朝来市埋蔵文化財センター蔵] 法興寺跡遠景 (写真手前の集落。東から撮影)



## 瓦 但馬の瓦と古代寺院

但馬で古代（飛鳥時代～平安時代）の瓦が出土する遺跡は、17か所。但馬の古代瓦の蓮華文は、大きく5つの傾向に分けることができます。それらは、新羅（朝鮮半島）や讃岐（香川県）、山城（京都府南部）、平城宮（奈良県）などの影響を受けていることがわかります。このことから、技術者の交流が盛んだったことはもちろん、寺院を造った氏族の交流関係までも想定することができるのです。



三宅廃寺跡（豊岡市三宅）



三宅廃寺（豊岡市三宅）



釣坂遺跡（朝来市立脇）  
[朝来市埋蔵文化財センター蔵]



奈良谷瓦窯跡（豊岡市日高町）



長見寺廃寺（香美町香住区）  
[兵庫県立考古博物館蔵]



但馬国分寺跡（豊岡市日高町）



但馬の瓦に影響を与えた瓦たち



但馬の瓦に影響を与えた地域

**Topics** 「都から地方へ」「地方から地方へ」

歴史研究のなかで、「都と地方」という捉え方をすることがあります。しかし、瓦の模様を見ると、都よりも地方間での交流が多かったようです。瓦は、複雑な文化交流の様相をも私たちに教えてくれるのです。

**石** いろいろな石材

鉄のない時代、人々は石を加工していろいろな道具を作っていました。しかし、私たちの身のまわりにあるすべての石が道具の材料になるわけではありません。刃物を作るには硬くて均質に割れる石が必要ですが、それらの石が産出される地域は限られています。そのため、人々は旧石器時代という2万年以上の昔から、石の性質を見極め、各地へ運搬していたのです。



- 石器の原石  
 1 北海道産黒曜石  
 2 九州産黒曜石  
 3 豊岡産碧玉  
 4 奈良県産サヌカイト

**石** 但馬最古の石器たち

今から約2万5千年前、鹿児島県にある始良火山が大噴火し、その灰は遠く北海道まで飛びました。鳥取県との県境に近い新温泉町の畑ヶ平遺跡では、この火山灰の下から石器が見つかっています。見つかった石器や石材の種類はさまざまで、人々が継続的に活動していた証にもなります。ただ、ここは標高約1000mの高地。当時の地形や気候などはわかりませんが、季節を選んだ一時的な居住場所だったのかもしれない。



畑ヶ平遺跡の旧石器 [個人蔵]

**石** さまざまな石の道具

石の道具といえば、打製石器や磨製石器のように、石器を思い浮かべるかも知れません。もちろん、石鏃や石庖丁、石斧のような実用的な石器も多く出土しますが、勾玉といった装身具なども多く出土しています。

石器は、弥生時代以降の金属の普及により姿を消していきますが、石のもつ美しさを生かした装身具や、耐久性・重量感を生かした石仏、墓石などに受け継がれています。石製品は常に私たちのそばにあるのです。



- 勾玉 <材質> 1 水晶 2・5 滑石 3 瑪瑙 4 碧玉  
 <出土地> 1~4 大師山古墳群 (豊岡市引野)  
 5 法尺谷古墳群 (豊岡市日高町)

# 但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

## ⑨ すみきぶたがわら 隅木蓋瓦

但馬国分寺跡（豊岡市日高町）出土  
奈良時代／長さ 38.9cm、幅 34.1cm／陶製



表

裏

隅木蓋瓦とは、屋根の四隅にある隅木を覆って風雨による腐蝕を防いでいる瓦のこと（2頁左上「本瓦葺屋根と瓦の名称」を参照）。隅木の奥、茅負かやおいという部材の角に当たる部分を三角形に切り欠いているのが特徴です。

簡単なものでは、平瓦を隅木に釘留めするものがありますが、但馬国分寺跡出土の隅木蓋瓦は、隅木にはめ込むように箱形に作っています。

## お知らせ

### ■講演会を開催します

第12回企画展「瓦礫の考古学」に合わせ、講演会を開催します。発掘調査で出土した“瓦礫”から、意外な但馬の古代史をご紹介します。ぜひご来聴ください。

演題：瓦礫からみた但馬の古代

講師：当館学芸員

日時：平成19年12月8日（土）午後1時30分～

場所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

### ■第8回ミニ企画展・兵庫県公館県政資料館巡回展示「兵庫県庁舎と郡役所－近代兵庫県の成り立ち－」を開催します。

慶応4年（1868）に成立した兵庫県は、今とは規模も領域もまったく異なっていました。県政を担う県庁も、現在の姿になるまで6回もその形や所在地を変えていて、兵庫県が近代を迎えるまでの道のりは単純ではありません。

県庁舎や但馬の郡・郡庁舎の移り変わりを通じて、兵庫県と但馬が近代を迎えるまでの歴史をご紹介します。

会期：平成19年11月1日（木）～11月27日（火）

場所：但馬国府・国分寺館 総合学習室

主催：兵庫県（県公館県政資料館）、但馬国府・国分寺館

後援：但馬文化協会

入場料：ミニ企画展のみの観覧は無料です。

### ■ミニ企画展記念セミナーを開催します

明治時代を中心に、県や郡の歴史などについて、県の歴史が浮き上がるように解説していただきます。

日時：平成19年11月10日（土）午後1時30分～

場所：日高農村環境改善センター 多目的ホール

講師：伏谷 聡氏（同志社大学文学部非常勤講師）

定員：50人（先着受付順）／参加無料

申込先：但馬国府・国分寺館（TEL 0796-42-6111）

### ■館外展示「新発見！豊岡の歴史展」を開催します

近年の相次ぐ発掘調査により、豊岡の歴史が塗り替えられています。さまざまな遺跡のさまざまな出土品から、豊岡の“新鮮”な歴史をご紹介します。（入場無料）

平成19年10月30日（火）～11月12日（月）

We ぶらざステーションギャラリー

（JR 江原駅構内／豊岡市日高町江原 106-8）

平成19年11月13日（火）～11月18日（日）

兵庫県但馬文教府ギャラリー

（但馬文教府内／豊岡市妙楽寺 41-1）

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内

■開館時間 午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）

■休館日 水曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）  
12月28日～1月4日

■入館料 大人 500（400）円、高校生 200（150）円、  
小中学生 150（100）円  
\*（ ）は20名様以上  
\*県内小中学生は無料  
\*市内65歳以上の方は半額

■最新情報はホームページもご覧ください。  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



ホームページ QRコード